

歴史文化専攻【修士課程】

時期	項目	内容・目的等
入学前 (入学試験時)	入試と指導教員決定	<ul style="list-style-type: none"> ●入学試験（筆記試験、口頭試問） 口頭試問は、複数の試験官による試験解答確認、研究志望領域及び研究計画案の確認が中心となる ●研究計画案と指導教員研究領域とのマッチング確認 ●研究科委員会にて、入学試験合否と指導教員決定
1 年 次	4月上旬	研究科と大学院事務課共催ガイダンス ●教職員から、教員紹介及び大学院での学修に関する基本的事項の説明【1時間程度】
		個別履修指導・相談 ●上記ガイダンスの後、指導教員からの個別履修指導（履修相談） ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須 ●研究活動に向けた参考文献・資料等の確認と紹介
	(1～2年次) 指導教員の「研究指導」科目を履修	●修士課程2年間にわたり、指導教員の「研究指導」科目を履修 ・研究計画の作成と提出 ・教員指導のもとで研究活動進行 ・修士論文の執筆方法等の確認 なお、研究指導は、学生の状況により「研究指導」科目以外の時間でも随時行われる
	6月下旬	学内学会「文学会」春季大会の開催運営と講演会に参加 ●招待講演者の講演会に参加 ・自身の研究活動の参考にする ・他者の研究内容・方法・成果を知り、知識や考えを深める
	9月下旬	修士論文テーマ決定 ●修士論文テーマを決定し、指導教員に報告 ※この時期に決定できない場合は、遅くとも11月末までには決定する
	11月上旬	学内学会「文学会」秋季大会の開催運営と講演会と研究発表会に参加 (修士課程2年次生は発表報告) ●招待講演者の講演会に参加 ●修士課程2年次生による研究発表会に参加（発言・質問可） ・自身の研究活動の参考にする ・自身が2年次に行うことを具体的にイメージする ・他者の研究内容・方法・成果を知り、知識や考えを深める
3月上旬	学内学会「文学会」の反省会と引継ぎに参加 ●文学研究科修士生(博士学位授与者など)が、在学時の経験・本人の近況・後輩へのアドバイスなどについて説明・報告 ・学修・研究活動・進路選択の参考にする	
2 年 次	4月上旬	研究科と大学院事務課共催ガイダンス 1年次と同様。変更点を中心に説明【1時間程度】
		個別履修指導・相談 ●上記ガイダンスの後、指導教員からの個別履修指導（履修相談） ※履修登録および変更には、指導教員の承認が必須 ●修士論文テーマの確認 ●研究の進捗状況確認（課程修了に向けたスケジュールの確認）
	6月下旬	学内学会「文学会」春季大会の開催運営と講演会に参加 ●1年次と同様。招待講演者の講演会に参加 ・自身の研究活動の参考にする ・他者の研究内容・方法・成果を知り、知識や考えを深める
	9月下旬	修士論文中間報告 ●修士論文提出希望者は、指導教員に修士論文の中間報告をするとともに、その基軸となる部分の発表のレジュメを提出 ●指導教員と修士論文提出希望者との間で、発表内容の確認
	11月上旬	修士論文中間発表会 (学内学会「文学会」秋季大会の研究発表会を活用して) ●以後の修士論文に展開する内容を発表 ●発表および質疑応答 ・参加者：研究科教員・修士課程学生・博士後期課程学生・その他 ・研究発表【25分】：修士論文の基軸となる内容等 ・質疑応答【15分～20分程度】：教員及び参加者（他の大学院生等）から、主に改善点の指摘等を受ける
	12月～ 1月上旬	修士論文加筆・修正⇒完成へ ●修士論文中間発表会において指摘された要改善点の加筆・修正 ●修士論文原稿の完成 ●指導教員による修士論文原稿の確認
	1月中旬	修士論文受理 ●提出論文の受理（1月文学研究科委員会にて） ●研究科は、学位審査委員会を組織（主査1名・副査2名の決定、主査は指導教員が務める）
	2月上旬	最終審査 ●論文審査および最終試験ならびに学力確認の実施 ・審査員および試験官：主査1名・副査2名 ・最終試験は口頭試問により実施（20分の説明と30～40分の質疑応答） ・学位審査委員会での評価は、審査員3名の合議により決定
	2月中旬	合否決定 ●学位審査委員会が審査結果報告書を作成し、文学研究科委員会に提出 ●文学研究科委員会が報告に基づき審議し、合否を決定

※上記は予定であり、内容及び時期を変更する場合がある